

子供の水辺の遊びではライフジャケットを着用させましょう

～子供用ライフジャケットの安全な使用に関する調査を実施しました～

子供に多い水の事故。事故を防ぐためには、ライフジャケットの着用が有効とされています。そこで、東京都では、子供用ライフジャケットの着用に関する消費者アンケートと、試験による調査を実施しました。

その結果をお知らせするとともに、消費者へのアドバイスや事業者団体への要望等を行います。

※本調査では、船舶法定備品か、自主基準対象品か、またはこれらの対象外品かを問わず、溺水を防ぐために身体につけるチョッキ状などの浮具を「ライフジャケット」と呼びます。



調査結果

1. ライフジャケットが役に立った事例

ライフジャケットが役に立った経験として「波にのまれた時浮いてきた」「海の深いところで落ちたが浮かんだ」「川に少し流されたが慌てることなく対応できた」などの事例があった。【報告書 p.13】

2. 活動により異なる着用率

ライフジャケット着用率は、流れのある場所でのボート遊びで最も高く、川や海での水遊び、陸上からの釣りで低かった（右図）。【報告書 p.10】

3. サイズ違い、ベルト締付け不足に注意

アンケートでは、「脱げそうになった」「ライフジャケットが浮いて首が苦しかった」など、サイズ違い、ベルト締付け不足を示す回答があった。ベルト締付け不足を再現した実験では、ライフジャケットがずり上がり、腰部と下肢が沈む様子が観察された。【報告書 p.15,40】

4. 着用していても危険な場所に注意

模型を使った再現実験では、リサーキュレーション（循環流。川の堰堤の下などに発生する上流側へ反転する流れ）から人形が脱出できなくなる様子や、ホワイトウォーター（急流や激流などで、逆巻く波や落ち込む流れにより白く泡立った水）で浮力が低下する様子が観察された。【報告書 p.42】

5. 表示された浮力を満たさない製品も

船舶の法定備品や第三者機関等の承認を取得した製品を除き、インターネットショッピングサイトで安価な順に購入したライフジャケット 10 検体に浮力試験を実施。10 検体中 2 検体で、表示された浮力を満たさなかった。【報告書 p.39】



実験動画

【裏面へ続く】

小学生の活動別
ライフジャケット着用率



調査方法

- ・アンケートは、都内及び近県在住で、過去 1 年間に同居する小学生の水辺の活動に同行した保護者 2,576 人にインターネットで調査
- ・試験は、模型や人形を用いた再現実験や、ライフジャケットに重りをつけ水に浮かべる浮力試験等を実施

詳しくはこちらをご覧ください。

東京くらしWEB



<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp>

【問合せ先】

消費生活部生活安全課商品安全担当

電話 03-5388-3082

消費者へのアドバイス

- 水辺の活動をするときには、ライフジャケットを積極的に着用しましょう
子供の水難による死亡事故は水遊び中に多く発生しています。しかし、海や川での水遊びや、陸上から釣りをする場合に、ライフジャケットの着用率が低くなっています。生存率を高めるため、ライフジャケットを着用しましょう。付添いをする大人も着用しましょう。
- 品質が確保されたライフジャケットを選びましょう
試験では、表示された浮力を満たさない製品がありました。表示された浮力を満たさない場合、水面に浮上する部分が減少するなどのおそれがありますので、品質が確保されたライフジャケットを選びましょう。桜マーク(国土交通省の型式承認(船舶用))や第三者機関による性能鑑定マーク、団体の認定マークがついていることも、品質や使用場面を判断する参考になります(東京くらしWEBにリンクがあります)。
- 体格にあったライフジャケットを選択し、ベルトをしっかり締めましょう
ライフジャケットが子供の体格に合っていなかったり、ライフジャケットのベルトの締付けが不十分な場合、ライフジャケットが脱落したり、浮かんだ際のバランスが悪くなる可能性があります。
- 危険な場所には子供を近づけないようにしましょう
ライフジャケットを使用していても危険な場所があります。例えば、堰堤の下ではリサーキュレーション(循環流。川の堰堤の下などに発生する上流側へ反転する流れ)が発生し、脱出が困難になることがあります。

要望：ライフジャケット自主基準関連団体等に、安全なライフジャケットの普及促進を要望する。

情報提供：国、水難救護活動を支援する団体等へ本調査結果を情報提供する。